

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	言語文化学コース (英語学英米文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)		コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)											
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキストを正確に読解することができる。</li> <li>2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。</li> <li>3. 課題を探究するために、情報収集、調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</li> <li>4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。</li> <li>5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。</li> <li>6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。</li> </ol>		<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>											
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)		コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)											
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的・論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>		<p>コトハと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。</p>		<p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p>		<p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p>		<p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p>		<p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。</p>		<p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>	
主履修分野のカリキュラム													
科目番号	授業科目	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4						
21401	言語研究入門	語学研究に取り込むための基礎的知識と基本的な方法論を習得する。	2	*				◎		◎	○		
21402	文学研究入門	文学研究に取り込むための基礎的知識と基本的な方法論を習得する。	2		*			◎		◎	○		
21408	英語学概説A	・英語学の研究分野一般についての理解を深め、自らの関心領域を特定する。 ・英語学の基本概念や考え方を、具体的な言語現象の分析を通して理解をする。	2~4	*	*	(*)	(*)	◎			◎		○
21409	イギリス文学史A	・対象となっている時代の文学の流れと時代の動向について、基本的な理解を確立する。 ・それぞれの作家の作品の原文での抜粋に触れることにより、英文の読解力を増進させる。 ・レポートの課題としてある程度の長さの作品を読み通すことで、イギリスの小説にじかに親しんでゆく契機を持つ。	2~4	*	*	(*)	(*)	○		○	◎		○
42197	英語学概説B	・英語学の研究分野一般についての理解を深め、自らの関心領域を特定する。 ・英語学の基本概念や考え方を、具体的な言語現象の分析を通して理解をする。	2~4	*	*	(*)	(*)	◎			◎		○
42198	英語学総論	英語学の各領域に関する総合的な知識を獲得し、自らの関心領域を特定する。	2~4	*	*	(*)	(*)	◎			◎		○
42126	英語学講義A	英語学における基礎知識を身につける。	2~4	*	*	(*)	(*)	◎		△	○		
42199	英語学講義B1	英語学における基礎知識を身につける。	2~4	*		(*)		◎		△	○		
42200	英語学講義B2	英語学における基礎知識を身につける。	2~4	*		(*)		◎		△	○		
42128	英文法講義A	英文法に関する先行研究からの洞察を踏まえて、英文法の基本的概念の理解を深め、英語力、文法力の向上を目指す。	2~4	*	*	(*)	(*)	◎		△	○		
42201	英文法講義B1	英文法に関する先行研究からの洞察を踏まえて、英文法の基本的概念の理解を深め、英語力、文法力の向上を目指す。	2~4	*		(*)		◎		△	○		
42202	英文法講義B2	英文法に関する先行研究からの洞察を踏まえて、英文法の基本的概念の理解を深め、英語力、文法力の向上を目指す。	2~4	*		(*)		◎		△	○		

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	言語文化学コース (英語学英米文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)		コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)									
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキストを正確に読解することができる。</li> <li>2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。</li> <li>3. 課題を探究するために、情報収集、調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</li> <li>4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。</li> <li>5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。</li> <li>6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。</li> </ol>		<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>									
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)		コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)									
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的・論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>		<p>コトハと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。</p> <p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p> <p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p> <p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。</p> <p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>									
主履修分野のカリキュラム											
科目番号	授業科目	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4				
42101	イギリス文学特殊講義A	シェイクスピアの後期の悲劇や問題劇、並びに、シェイクスピア朝の劇作家の作品について、社会や政治の状況、家庭観、人の主体構成のあり方といった問題を絡めて、考えてゆく。 その時代の社会や文化の動向について、基本的な理解を確立する。 取り上げられる作家の作品の原文での抜粋に触れることによって、英文の読解力を増進させる。 レポートの課題としてシェイクスピアらの作品を読み通すことで、イギリスの戯曲にじかに親しんでゆく機会を持つ。	2~4	*	*	(*)	(*)	○	○	◎	○
42102	イギリス文学特殊講義B	シェイクスピアが劇作家としての自らのあり方を確立していった16世紀末から17世紀初頭にかけてのシェイクスピアと彼の同時代の劇作家の作品について、社会や政治の状況、家庭観、人の主体構成のあり方といった問題を絡めて、考えてゆく。 その時代の社会や文化の動向について、基本的な理解を確立する。 取り上げられる作家の作品の原文での抜粋に触れることによって、英文の読解力を増進させる。 レポートの課題としてシェイクスピアらの作品を読み通すことで、イギリスの戯曲にじかに親しんでゆく機会を持つ。	2~4	*	*	(*)	(*)	○	○	◎	○
42203	イギリス文学史B	・対象となっている時代の文学の流れと時代の動向について、基本的な理解を確立する。 ・それぞれの作家の作品の原文での抜粋に触れることによって、英文の読解力を増進させる。 ・レポートの課題としてある程度の長さの作品を読み通すことで、イギリスの小説にじかに親しんでゆく機会を持つ。	2~4	*	*	(*)	(*)	○	○	◎	○
42204	アメリカ文学史A	アメリカ文学のキャンパンと呼ばれている作家について概説する講義を通して、アメリカ文学の基礎的知識を習得することができる。	2~4	*	*	(*)	(*)	◎	○		○
42205	アメリカ文学史B	「ロスト・ジェネレーション」の作家たち以降の「アメリカニズム」の定義を多文化主義へと変貌させていく担い手となった作家たちについて概観していく。	2~4	*	*	(*)	(*)	◎	○		○
42206	北米文化論	英語圏文学・文化の歴史的成立過程をジェンダー・階級・人種の視点から考察し、現代に通ずる課題を読み解いていけるようにする。	2~4	*	*	(*)	(*)		◎	○	
42207	英語圏文学特殊講義	「アメリカ文化と黒人文学」をテーマとして、アメリカ社会の背景に「人種的要素」がどのように構造化されているかを探り、主要な黒人文学の知識を得る。	2~4	*	*	(*)	(*)		○	◎	

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	言語文化学コース (英語学英米文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)		コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)											
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキストを正確に読解することができる。</li> <li>2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。</li> <li>3. 課題を探究するために、情報収集、調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</li> <li>4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。</li> <li>5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。</li> <li>6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。</li> </ol>		<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>											
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)		コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)											
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的・論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>		<p>コトハと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。</p>		<p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p>		<p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p>		<p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p>		<p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。</p>		<p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>	
主履修分野のカリキュラム													
科目番号	授業科目	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4						
42211	イギリス近代文学演習A	成熟した市民社会を背景にして、18世紀に興ってくるイギリス小説その展開を、当時の社会状況や思想・思潮の動向、あるいは、作家のありようなどの相関をふまえながら、学んでゆく。 その時代の文学の流れと時代の動向について、基本的な理解を確立する。 取り上げられる作家の作品の原文での抜粋に触れることによって、英文の読解力を増進させる。 レポートの課題として長めの作品を読み通すことで、イギリスの小説にじかに親しんでゆく機会を持つ。	2~4	*	*	(*)	(*)	○	○	◎			○
42212	イギリス近代文学演習B1	成熟した市民社会を背景にして、18世紀に興ってくるイギリス小説その展開を、当時の社会状況や思想・思潮の動向、あるいは、作家のありようなどの相関をふまえながら、学んでゆく。 その時代の文学の流れと時代の動向について、基本的な理解を確立する。 取り上げられる作家の作品の原文での抜粋に触れることによって、英文の読解力を増進させる。 レポートの課題として長めの作品を読み通すことで、イギリスの小説にじかに親しんでゆく機会を持つ。	2~4	*		(*)		○	○	◎			○
42213	イギリス近代文学演習B2	成熟した市民社会を背景にして、18世紀に興ってくるイギリス小説その展開を、当時の社会状況や思想・思潮の動向、あるいは、作家のありようなどの相関をふまえながら、学んでゆく。 その時代の文学の流れと時代の動向について、基本的な理解を確立する。 取り上げられる作家の作品の原文での抜粋に触れることによって、英文の読解力を増進させる。 レポートの課題として長めの作品を読み通すことで、イギリスの小説にじかに親しんでゆく機会を持つ。	2~4		*		(*)	○	○	◎			○
42208	イギリス古典文学演習A	イギリス古典文学作品の英語に慣れ親しむことで、英語の読解力を総体的に高めると同時に、論理的な思考力を養う。 作品の中に表わされた作者の人間観や、当時の社会的規範や文化的状況、とりわけ近代における家族やジェンダーといった問題も併せて考察し見識を深める。	2~4	*	*	(*)	(*)	○	○	○			◎
42209	イギリス古典文学演習B1	イギリス古典文学作品の英語に慣れ親しむことで、英語の読解力を総体的に高めると同時に、論理的な思考力を養う。 作品の中に表わされた作者の人間観や、当時の社会的規範や文化的状況、とりわけ近代における家族やジェンダーといった問題も併せて考察し見識を深める。	2~4	*		(*)		○	○	○			◎

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	言語文化学コース (英語学英米文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)		コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)									
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキストを正確に読解することができる。</li> <li>2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。</li> <li>3. 課題を探究するために、情報収集、調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</li> <li>4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。</li> <li>5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。</li> <li>6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。</li> </ol>		<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>									
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)		コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)									
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的・論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>		<p>コトハと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。</p> <p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p> <p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p> <p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。</p> <p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>									
主履修分野のカリキュラム											
科目番号	授業科目	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4				
42210	イギリス古典文学演習B2	イギリス古典文学作品の英語に慣れ親しむことで、英語の読解力を総合的に高めると同時に、論理的な思考力を養う。 作品の中に表わされた作者の人間観や、当時の社会的規範や文化的状況、とりわけ近代における家族やジェンダーといった問題も併せて考察し見識を深める。	2~4		*		(*)	○			○
42214	英語圏文学演習1	英語圏の文学テキストを精読しながら、みずからテーマを見つけ読解していく能力を習得できる。	2~4		*		(*)				○
42215	英語圏文学演習2	英語圏の文学テキストを精読しながら、みずからテーマを見つけ読解していく能力を習得できる。	2~4		*		(*)				○
42216	アメリカ文学演習	アメリカ文学テキストを精読しながら、みずからテーマを見つけ、読解していく能力を習得できる。	2~4		*	*	(*)	(*)			○
42185	英米文学演習A	英米文学のテキストを精読しながら、みずからテーマを見つけ読解していく能力が習得できる。	2~4		*	*	(*)	(*)			○
42217	英米文学演習B1	英米文学のテキストを精読しながら、みずからテーマを見つけ読解していく能力が習得できる。	2~4		*		(*)				○
42218	英米文学演習B2	英米文学のテキストを精読しながら、みずからテーマを見つけ読解していく能力が習得できる。	2~4		*		(*)				○
42154	英語学理論演習A	英語学の各理論についての理解を深め、自らの関心領域を特定する。	2~4		*	*	(*)	(*)	◎		◎
42219	英語学理論演習B1	英語学の各理論についての理解を深める。	2~4		*		(*)		◎		◎
42220	英語学理論演習B2	英語学の各理論についての理解を深める。	2~4		*		(*)		◎		◎
42158	英文法研究A	英文法に関する総合的な知識とし思考法を獲得し、自らの関心領域を特定する。	2~4		*	*	(*)	(*)	◎		◎
42221	英文法研究B1	英文法に関する総合的な知識とし思考法を獲得する。	2~4		*		(*)		◎		◎
42222	英文法研究B2	英文法に関する総合的な知識とし思考法を獲得する。	2~4		*		(*)		◎		◎
42223	英語学理論研究1	英語学における基本的な理論や研究について理解し、英語に関する知識を深める。	2~4		*		(*)		◎		△
42224	英語学理論研究2	英語学における基本的な理論や研究について理解し、英語に関する知識を深める。	2~4		*		(*)		◎		△
42162	英語認知論A	認知言語学の考え方を学び、英語の理解に役立てる。	2~4		*	*	(*)	(*)	◎		△
42225	英語認知論B1	認知言語学の考え方を学び、英語の理解に役立てる。	2~4		*		(*)		◎		△

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	言語文化学コース (英語学英米文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキストを正確に読解することができる。</li> <li>2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。</li> <li>3. 課題を探究するために、情報収集、調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</li> <li>4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。</li> <li>5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。</li> <li>6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。</li> </ol>	<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-----------------------	--

<p>【学類のCP】 人文学類の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。 【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的・論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>	<p>コトハと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。</p> <p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p> <p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p> <p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を積み重ねることにより、意見発表能力を鍛える。</p> <p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>
--	---

主履修分野のカリキュラム

科目番号	授業科目	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4					
42226	英語認知論B2	認知言語学の考え方を学び、英語の理解に役立てる。	2~4		*		(*)	◎		△	○	△
42227	英語学基礎演習	・英語論文を精読する力を身につける。 ・言語(特に英語)に対する基礎的な洞察力・分析力を身につける。	2~4	*	*	(*)	(*)	◎		△	○	△
42110	英米言語文化概説	・英語圏の言語文化に触れ、理解を深める。	2~4	*	*	(*)	(*)		○	◎	○	
42228	英米文化交流史研究1	・イギリス内外の政治外交史について、広く理解できる。 ・自らの関心を基に、独自に調査に取り組むことができる。	2~4	*		(*)				◎	◎	
42229	英米文化交流史研究2	・イギリス内外の政治外交史について、広く理解できる。 ・自らの関心を基に、独自に調査に取り組むことができる。	2~4	*			(*)			◎	◎	
42113	イギリス文学概説A	・18世紀までのイギリス文学の歴史が分かるようになる。 ・様々な英語に触れ、現代語以外の英語に馴染める。	2	*	*			○		◎	○	
42114	イギリス文学概説B	・19世紀以降のイギリス文学の歴史が分かるようになる。 ・様々な英語に触れ、現代語以外の英語に馴染める。	2		*	*		○		◎	○	
42115	英米文化研究A	英語圏の言語文化に触れ、理解を深める。	2~4	*	*	(*)	(*)		○	◎	○	
42230	英米文化研究B1	英語圏の言語文化に触れ、理解を深める。	2~4	*		(*)			○	◎	○	
42231	英米文化研究B2	英語圏の言語文化に触れ、理解を深める。	2~4	*			(*)		○	◎	○	
42232	英語圏広域文化研究	英語圏の社会を取りまく様々な問題に関する広い知識を獲得することができる。	2~4	*	*	(*)	(*)		○	○	◎	
42233	英米文化動態論1	英米を中心とした英語圏で、時代を経て変化を遂げていく様々な文化が抱える問題について理解を深める。	2~4	*		(*)		◎	○	◎	○	
42234	英米文化動態論2	英米を中心とした英語圏で、時代を経て変化を遂げていく様々な文化が抱える問題について理解を深める。	2~4	*			(*)	◎	○	◎	○	
42235	英米文化基礎論1	英米の文化の基礎知識を得て、取りまく問題について理解を深める。	2~4	*		(*)		◎	○	◎	○	
42236	英米文化基礎論2	英米の文化の基礎知識を得て、取りまく問題について理解を深める。	2~4	*			(*)	◎	○	◎	○	
42237	イギリス小説演習	・イギリス文学を論じる観点が分かる。 ・英文を文法的に正確に解釈する力がつく。	3	*	*	(*)	(*)	◎	○	◎	○	
42238	英米言語文化演習1	・英語圏の言語文化に触れ、理解を深める。	2~4	*		(*)			○	◎	○	
42239	英米言語文化演習2	・英語圏の言語文化に触れ、理解を深める。	2~4	*			(*)		○	◎	○	

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	言語文化学コース (英語学英米文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)		コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)												
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキストを正確に読解することができる。</li> <li>2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。</li> <li>3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</li> <li>4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。</li> <li>5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。</li> <li>6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。</li> </ol>		<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>												
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)		コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)												
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的・論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>		<p>コトハと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。</p>		<p>外国事情に関心をもち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p>		<p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p>		<p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p>		<p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。</p>		<p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>		
主履修分野のカリキュラム														
科目番号	授業科目	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4							
42240	英語表現法1	英語表現の基礎知識を理解し、適切な表現を身につける。	2~4	*		(*)			◎	○				
42241	英語表現法2	英語表現の基礎知識を理解し、適切な表現を身につける。	2~4		*		(*)		◎	○				
42193	英語プレゼンテーション	・英語でプレゼンテーションをする際に必要な基礎知識と基本的スキルを身につける。 ・テーマに沿って自身の考えをまとめ、発表し、相手に伝えることができる、英語力を養成する。 ・人前で発表する機会に慣れ、英語で効果的な発表ができるよう、スキルアップを目指す。	2~4	*	*	(*)	(*)		◎		○	◎		
42174	英語コミュニケーション	・英語表現の基礎知識を理解し、適切な表現を身につける。 ・英語コミュニケーション能力を高める。	2~4	*	*	(*)	(*)		◎	○		○		
42242	実用英文法A1	実用的な観点から英文法を見直し、用法に見られる論理性を包括的に理解する。	2~4	*		(*)			◎	○				
42243	実用英文法A2	実用的な観点から英文法を見直し、用法に見られる論理性を包括的に理解する。	2~4		*		(*)		◎	○				
42244	実用英文法B1	実用的な観点から英文法を見直し、用法に見られる論理性を包括的に理解する。	2~4	*		(*)			◎	○				
42245	実用英文法B2	実用的な観点から英文法を見直し、用法に見られる論理性を包括的に理解する。	2~4		*		(*)		◎	○				
42177	アカデミックライティングA	自らの考察を英語で論理的に表現する方法を習得する。	2~4	*	*	(*)	(*)		◎	○		○		
42178	アカデミックライティングB	自らの考察を英語で論理的に表現する方法を習得する。	2~4	*	*	(*)	(*)		◎	○		○		
31001	卒業論文演習A	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野における研究課題の設定、先行研究の調査・読解の適切な方法を身につける。 ・学術論文の形式を理解する。	4	*	*				◎	○	○	◎	○	◎
31002	卒業論文演習B	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野において適切な研究計画を遂行するための技法、考え方を身につける。 ・得られた情報を総合的に考察し、研究成果を的確に報告できるようになる。	4			*	*		◎	○	○	◎	○	◎

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	言語文化学コース (英語学英米文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)		コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)																		
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキストを正確に読解することができる。</li> <li>2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。</li> <li>3. 課題を探究するために、情報収集、調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</li> <li>4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。</li> <li>5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。</li> <li>6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。</li> </ol>		<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>																		
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)		コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)																		
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的・論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>		<p>コトハと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。</p>	<p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p>	<p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p>	<p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p>	<p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。</p>	<p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>													
主履修分野のカリキュラム																				
科目番号	授業科目	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4													
31003	卒業論文	・学術論文の習作と位置づけられる論文を執筆することで、自らの研究成果を公表する技法を学ぶ。 ・人文学的学問において要求される論理性や科学性の質、水準を理解し、それを充たすために必要な論述の条件について知る。	4			*	*		◎		○	○	◎	○						◎
11057	人文学序説A	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・ラボラトリ(実験)、サーベイ(調査と分析)という方法の基礎的な知識を理解する。	1	*		(*)			◎											
11058	人文学序説B	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・フィールドワーク(野外実習・調査)という方法の基礎的な知識を理解する。	1		*	(*)			◎											
11059	人文学序説C	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・哲学・歴史学分野における具体的な研究実践やテキスト(文献)の扱い方について基礎的な知識を理解する。	1	(*)		*			○		○									
11060	人文学序説D	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・言語や文学に関するテキスト(文献)の扱い方について基礎的な知識を理解する。	1		(*)	*			○		○									
11061	学類共通英語A	・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。	3	*					◎										○	
11062	学類共通英語B	・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・「学類共通英語A」より高いレベルで、英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。	3		*				◎										○	

※ (\*)は年度によって開講時期が異なることを示します。